

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

TYM joins the tractor fray 南アフリカ

TYMが南ア・トラクタ市場に登場



拡大する南アフリカのトラクタ市場で新たに型式リストに加わったのは、TYMブランドだ。早速、同ブランドのT1003型はスチュワート・マッケンジー氏によって、クワズルナタール州ミッドランド、カークルーフ地方に所有するロスコップ農場で使用するために購入された。620haに及び同農場のうち、現在の耕作地は約400ha。その大半が牧草地で、残る100haで飼料用トウモロコシを栽培している。

マッケンジー氏がTYMを購入した主な理由は、同農場の集約酪農作業の中で乳牛700頭に餌を与えるために用いる大型の飼料ミキサーとの相性の良さにある。パーキンスエンジン104D-44TAが出力する100馬力は、ミキサーを動かしても、多くのサイレージペールを積んでも余裕がある。飼料は連続的に投入するよりはむしろ、分かれた容器に入れられるため、給餌を停止したり再開したりするのにパワーシャトル・トランスミッションが役立つという。

PTOは540、750、1000rpmで作動し、トランスミッションには32個の正逆転ギアが付いている。エアコン付きの大型キャabinは広くて乗り心地も良く、扱いやすいようだ。エアコンについて言えば、特にアフリカの夏場は日陰でも気温30℃を超すことがあるので、農家もついに快適な労働環境が生産性向上を生むということを認識するようになったようだ。

南アフリカでは、年間平均約1万4000台のトラクタが売れて勢いのあった1970年代に比べると、現在の市場は劇的に縮小している。過去最高売上を記録した81年には、輸入制限が出されるのを前に、驚きの2万4000台が販売された。これ以降は下り坂をたどり、92年の販売数は2207台と底を打った。それからトラクタ事業は復活し、昨年の販売数は7300台を超えている。



牧草地にライグラスを追播する準備として、TYM T1003トラクタでディスクをかけている。南アフリカのトラクタ売上台数は右肩上がりだ。

Buoyant machinery sales shrug off 2011 floods オーストラリア

好調の農機販売に11年洪水の影響なし



2011年夏に東海岸一帯が洪水に見舞われた悲劇をよそに、オーストラリアのトラクタ販売総数は、前年から9%上昇して1万239台と好調を保っている。

皮肉なことに、終わってみれば09年には及ばなかったものの、11年は過去2番目に高い売り上げを記録した。アグリビュー社のチーフアナリスト、アラン・カーズトン氏によれば、投資控除措置が取られた09年には1万1456台が販売された。11年の好調は、30kW/40馬力クラス以下のトラクタ販売が16%、150kW/200馬力クラス以上が22%、30〜75kW/40〜100馬力クラスが11%、それぞれ上昇したことによる。

良いニュースはこれまでと同氏は説明する。75〜150kW/100〜200馬力クラスの販売は、クイーンズランド州で41%減少したため、全国では11%下がった。このクラスのトラクタ販売は、28%の成長を遂げたニューサウスウェールズ州を除く全州で減少している。

ニューサウスウェールズ州におけるトラクタの新車事業は全体で12%向上している。同時にビクトリア州は15%伸び、南オーストラリアとノーザン・テリトリーはやや緩やかな5%、タスマニア州の需要は3%増だった。西オーストラリア州の市場は停滞し、1%強の伸びに留まった。

「12年が楽しみだ。市場は好調を維持し、クイーンズランド州と西オーストラリア州で需要の拡大が予想される」とカーズトン氏。

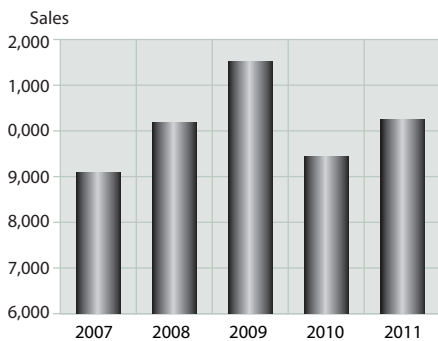
一方、11年のコンバイン事業は、正確な統計が入手可能になった89年以來4番目に多い販売数を記録することになりそうだ。

全州で増益を記録し、中でもニューサウスウェールズ州では110%増で、南オーストラリア州の72%増が続く。



「オーストラリアのトラクタ市場は、2012年中も好調を維持するだろう」と話すアラン・カーズトン氏。

■オーストラリアのトラクタ販売数





National Agriculture Day in the US

米国

全米の「農業の日」



1973年以来、個人、団体問わず全米で「農業の日」を祝ってきた。

今年、ゲティスバーグ高校とバトルフィールドFFA (米国学校農業クラブ連盟) のゲティスバーグ支部は、食品、繊維、再生可能資源がどのように作られるのかを伝えるイベントを主催した。強い経済を維持しながら安全に豊かで手頃な価格の製品を提供する農業の役割について、学生や地域の人々に理解を深めてもらえるように様々な催しが行なわれた。

「いろいろな展示物を用いて学校全体と地域の人々に農業の基礎を紹介したかった」とバトルフィールドFFA代表のグレッグ・チェン・ダブスさんは語った。「会場には大型のGVM製の肥料散布機を運び入れておいたので、木曜日の朝登校してきた生徒たちは皆、ビックリしていたわ。それから肉牛、乳牛、競技馬を学校の入り口に近い歩道に並べておいたのよ」と付け加えた。屋内ではアグチョイス・フアーム・クレジット、ファイザー社のアニマルヘルス部門、ペンシルベニア州コープ・イクステンション (Penn State Cooperative Extension) による展示が行なわれた。生徒たちに農業の道に進むことを検討してもらおうと、4校のカレッジによる熱心な学校説明も行なわれた。

基調講演を行なったのはデラウェア・ア・パレー・カレッジ、農業・環境科学部長のラッセル・レディング氏。農業界に良い人材がいかに必要を示すため農務省のデータを引用した。農業界の求人は毎年5万4000件に及ぶ。



「若者を農業に惹きつけることがますます求められている」。それがゲティスバーグ高校で開かれた農業祭のメッセージだ。

The sound of utility vehicle silence

オランダ

音のしない小型トラック



通常、ディーゼルエンジンの小型トラックは静かな農機とは言えない。アクセルを強く踏み込めば、それなりの音が出る。しかし、それはオランダ北部バッケフェーン村のフリシアン・モーター製の電動小型トラックFM-50には当てはまらない。

FM-50はバッテリーをフル充電すると、最高速度60kmで80kmもの距離を走行できるという。速度を落とせば、より長い距離を走ることができるので、9つのバッテリー (各8V) があれば、通常1日の農作業には十分である。再充電には約8時間を要し、その間の電気料金は約2ユーロ (≒約200円)。

その上、エンジン音がしない。これは際立った特徴で、今までに経験したことがないので、作業者の中には慣れるのに時間がかかる者もいるだろう。エンジンを止めることなく同乗者と話をすることもできるし、電話での会話も可能だ。唯一の障害は、サスペンションから出るキーキーという音と、音を立てずに忍び寄るトラックに気が付いた通行人が上げる驚きの声だろう。

荷台は幅100cm、奥行き90cm (オプションで130cm)。差動装置を介する後輪駆動で、4つの車輪ともにディスクブレーキとサスペンションが付いている。

フリシアン・モーターは2011年に24台のFM-50を販売した。価格は約1万ユーロ (約100万円)。



フリシアン・モーターの電動小型トラックの最高速度は60km/h。